



Desert Wind

2009年正月号
(No.26)

LVJCC 牧師: 鶴田健次

『まことの礼拝者たち』(ヨハネ4章4-25節)

毎週、教会では、週の初めに礼拝を守りますが、この礼拝がいかに大切なものであるかを知るクリスチャンはどれ位いるでしょうか? 創られし者が創り主なる神を礼拝することは、創造の秩序であり、クリスチャン生活の死活問題とも言えることです。クリスチャンは、礼拝を守ることによって、実は、自分が守られているのです。

さて今回は、まことの礼拝者について考えてみたいと思いますが、ヨハネ 4 章 23、24 節を見ると、神がどのような礼拝者たちを求めておられるかが記されています。神は、どういう礼拝者を求めておられるのでしょうか? よく働く人、よく聖書を学ぶ人、よく伝道する人、それとたくさん献金する人でしょうか? もちろん、よく奉仕をし、聖書を学び、伝道をし、献金をすることは大切なことであり尊いことです。しかし、イエス様によれば、神が本当に求めておられる人とは、『霊とまことをもって礼拝する者』であるということです。

私たちは真心から、霊とまことをもって神様を礼拝しなければならないのです。皆さんは如何でしょうか? 皆さんは、そのような礼拝を捧げておられるでしょうか? もちろん、ノンクリスチャンの方々は礼拝の意味を知らずに礼拝に来られます(それはそれで大変感謝なことです)が、クリスチャンの中にも、礼拝の意味を勘違いし、間違った礼拝を捧げている方がおられるかも知れません。そういう方はぜひ、このイエス様の言葉を通して、本当の礼拝の意味を知り、そういう礼拝でなければ得られない恵みを経験していただきたいと思ひます。

それでは、『霊をもって礼拝する』とはどういうことでしょうか? ここで言う『霊』は、ギリシャ語でもヘブル語でも、『息』という意味で、神から与えられた命を意味します。つまり『霊をもって礼拝する』とは、自分の命(存在)をすべて神の前に注ぎ出して神を礼拝するということです。それは、何か用があったら、すぐに礼拝を休むというような心ではなく、万難を排して礼拝

を守り抜くという心の姿勢を持つことです。

1924年、パリ・オリンピックのイギリスの代表選手であったエリック・リデルは、自分の出場種目である100m 走が日曜日に行われることを知ると、神を礼拝するほうがさらに大切なことだと言って試合を棄権してしまいます。世の中は、彼を非難し、国の裏切り者とまで言う人もいました。ところが木曜日に行われる400m走の選手がけがをして出られなくなり、リデルが代わりに出場することになりました。100mと400mは全く違う競技ですが、400mに出場したリデルは金メダルを手に入れました。また100mも、リデルの代わりに選手が金メダルを獲得したのです。その後、リデルは、それまでの全ての実績を捨てて、キリストを伝えるために中国に渡ります。中国の人たちは、こんな素晴らしい人が、ここまでキリストの福音を伝えるには、よほど大切なことであるに違いないと言って、多くの人が話を聞いたそうです。礼拝を守ることの大切さは、そういうものです。また、そのような人の話にならば耳を傾けるということです。

では、『まことをもって礼拝する』とはどういう礼拝でしょうか? それは、聖書の真理に基づいて神を礼拝することを意味します。ですから、礼拝では、真理である聖書の御言葉が中心になって私たちの霊性が養われるわけです。イギリスの神学者ジョン・ストットは、『御言葉と礼拝は切り離すことができない。礼拝とは神の啓示に対して、知性と愛をもって応えることである。神に受け入れられる礼拝は、説教なしには成り立たない。説教は主を知らせることであり、礼拝は知らされた主をほめたたえることである。私たちの礼拝が貧弱なのは、私たちの神を知る知識が貧弱だからである』と言いました。つまり、礼拝の中心はイエス・キリストであり、説教の中心はイエス・キリストでなければ礼拝の意味がないということです。なぜなら、このイエス・キリストこそが、私たちに永遠の滅びから救い出し、永遠の命へと導かれる救い主であり、その救いにあずかった者が、この救い主キリストをほめたたえることが礼拝だからです。

DREAMS COME TRUE

- ✠教会堂の建設
- ✠敬老ホームの設立
- ✠幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 引越された丸田先生ご夫妻の新たな地での生活が守られよ
- Youth Ministryのため片野かおり姉の癒し
- 新井雅之兄の脳内出血の後遺症のリハビリと癌治療のため、また総ての必要が満たされるように
- 倉田一徳さんの脳腫瘍の癒しのために
- 小さな子供を持つお母さん方のクラスのために(香織姉担当)
- 日本の家族の救いのために
- 英語部の働きのために
- 入門者クラスの方々のために(早希姉)
- 病の方の癒しのために

.....
Desert Wind では1400字程度のお証、また質問を募集しています。ご意見・質問等何でもどうぞ。
lvjccnews@hotmail.com
編集: 真子ガーディー
松岡みどり



編集部から

新年明けましておめでとうございます。例年より寒さが厳しい今シーズンですが、12月のLVでは、30年ぶりの大雪が降り、周りの山々は雪景色につつまれ、砂漠とは思えない、綺麗な景色を楽しむ事が出来ましたね。子供達は公園で生まれて初めての雪だるまを作り、ソリすべりをしているのを見て、四季がある素晴らしいさを実感し、主に感謝致しました。

さて、この2009年は世界大不況の中で始まりましたが、「世に勝つ者は誰か。イエスを神の子と信じる者ではないか。」(ヨハネ5:5)との御言葉を思ひます。心に豊かさが与えられ、希望は失望に終ることはない、との御言葉を賜わっている私たちは何と幸いです。この一年が主の愛と祝福に満ちた一年でありますように。
Masako & Midori

証し: 佐藤 静佳

偶然がもたらしてくれた恵み

私は、1年前の1月に初めてLVJCCを訪れました。実際その半年前からラスベガスにはいたが、語学学校で同じクラスだった堀田兄より何度か「教会に行きませんか?」と誘われていました。しかし、車を持っていない私が当時のステイ先から教会に行くには、バスで1時間半かかり、教会に行く事自体に抵抗はありませんでしたが、全く行こうなどと考えもしませんでした。

ところが、10月末から2カ月間日本に一時帰国をしていた間にホストマザーが引っ越しをしてしまったのです。1月に戻ってきた私は、新しいステイ先が学校からかなり遠い事に焦りを感じ、早速部屋探しが始まりました。偶然にもそこは学校からは遠くても、教会からは徒歩15分の所で、堀田兄から「教会に部屋を貸してくれる方がいるかもしれない」と情報をいただき、初めてLVJCCを訪れる事となりました。

渡米以前から、恐らくクリスチャンの放つキリストの香りをどこかで感じていたのか?、キリスト教には自分を高めしてくれる何かがあるのではないかという思いはありました。その為、部屋探しの目的の他に聖書について学んでみたいと思つた事が重なり、教会に自ら足を運ぶ様になりました。

そうして、毎週礼拝に通い、入門者クラスを受ける様になりました。私は、入門者クラスで少しずつ聖書の基本となる所を一から知っていったという状況だった為、礼拝に通う様になった始めの頃は、メッセージの意味が何か人生成功の秘訣の様に聞こえておりました。その為、メッセージの折に礼拝の意味、イエス・キリストの十字架の意味を話される度に自分が礼拝に来ている目的とその話にずれが生じている事を感じておりました。しかし、聖書について学んでいくに連れて次第にメッセージの聞こえ方は変わってきました。

まず、私は神様の不変の愛に感動を覚えました。私の母はとても厳しく私を育てた為、私にはエゴグラム(自己啓発テストの様なもの)でいう「従順な子供」という心理が強く働く性格が出来上がってしまっていました。その為、いつも人の目を気にし、いい子でなければならないという事ばかり考え、いつも失敗にピクピクし、自分に自信が持てず、更に自分を

甘やかす事も出来ない性格になっていました。正直なところ、「愛」とは何か良く分からずにおりました。母の事が大好きなのに、何故か心から好きだとは思えなかったのです。聖書を通じて神様の示して下さっている愛(状況に左右されること無く、与える愛)を学び、ようやく私は「愛」というものを理解できたのです。それから、私は母の見え方が変わりました。母がどれだけ私に愛情をもっているのかを感じ感謝することが出来る様になったのです。

その次に、イエス・キリストの十字架について感謝を覚えました。入門者クラスを受けている時に何度も十字架の意味については説明をうけました。中には突然鳥肌が立つ人、涙する人がいると聞きましたが、私にはその様な強い感情は湧きませんでした。しかし、ある折に、イエス・キリストは神であると同時に完全な人間であり、私達の感じる喜び、悲しみ、痛み、苦しみを同じ様に感じる性質をお持ちであったという事を学び、この事をふまえてイエス様が十字架にかかって下さった事を考える機会がありました。その時私は、恐らく、恐怖・怒り・痛み・苦しみを覚えたであろう状況下で、イエス様は私達を救って下さったのだと思ひ、その事への重みと大きな恵みを感じました。

この経験の後から私の礼拝に参加する意味も変わりました。イエス様に感謝し、賛美する気持ちが自然とわくようになりました。未だに車がない状況で教会に足を運ぶ事には不自由な事はありますが、兄弟・姉妹に助けをいただきながらも、主日礼拝だけは守ろうという気持ちを持つようになりました。

更に、私の日常生活も少しずつ変わってきました。日常で起こる出来事を聖書の視点から考えようとする様になり、物事の捉え方が変わり、反応の仕方が変わったのだと思ひます。私の導き主である堀田兄からは以前の私と、キリストを知ってからの私に大きな違いを感じると良く言われるようになりました。

私は、ホストマザーの引っ越しという偶然から教会に通う事になりましたが、その事によって救われ、愛や恵を感じて生活を送る事が出来るようになりました。神様に感謝いたします。

◀佐藤 静佳▶



